

1. 会長挨拶	
2. 市民意見募集内容等の報告	
3. 学識経験者委員からの報告	
委員	<p>野鳥における高病原性鳥インフルエンザの発生には、3つの特徴がある。</p> <p>野鳥はニワトリよりも高病原性鳥インフルエンザウイルスに強い。今回、多くの野鳥が日本で感染、発病し、その中で生き残った野鳥が、シベリアの方へ帰ったといわれている。高病原性鳥インフルエンザは、シベリアの方で毎年感染する。そのため、今年は、感染した野鳥がまたシベリアから戻ってくる可能性があるると多くの研究者の中でいわれている。</p> <p>2つ目は、今年はなぜ野鳥が死ぬようになったのかということである。ウイルスは変異をする。体内でウイルスが増えていく間に変異が起これると、突然、より強毒になったり、突然、人に感染するようになる恐れがある。例年よりも、ウイルスが強毒になっているのではないかといわれている。</p> <p>3つ目は、高病原性鳥インフルエンザにかかると、ニワトリはほぼ100%死んでしまう。家禽の飼育家にとっては、大きな問題である。また同時に、人に感染する病原体でもある。大量にウイルスに接触した人にしか感染しないと言われていたが、かかった人を殺すこともある。</p> <p>3つの可能性があるということにおいて、今回の宇部市、山口県の対応は、苦渋の決断ではあったが、迅速な対応だったと理解している。</p> <p>・ 前回の質問についての回答</p> <p>(1) 鳥インフルエンザのワクチンについて</p> <p>海外では、鳥用のワクチンが作成されているが、日本を含め、世界の多くの国では使用されていない。ワクチンを使用すると、感染したとしても発症が抑えられるが、それによって、ウイルスの存在に気付かなくなる可能性があるためである。しかし、万が一摘発淘汰で広がりを抑えられなくなった場合は、農林水産省からワクチンの供給が始まるであろう。ワクチンの使用は国の監視下で行うことが定められている。</p> <p>(2) 水質や水温による鳥インフルエンザの感染の違いについて</p> <p>水を介して感染するのが、鳥の感染の特徴である。高病原性鳥インフルエンザウイルスを用いた実験結果として、淡水の場合、17度では、水中でウイルスが94～158日間、28度になると26～30日間感染性を維持したというデータがある。</p> <p>(3) エサを水中で与える場合と陸地で与える場合のウイル</p>

	<p>スの感染の違いについて 個人の意見としては、大きく差はないと考える。ただし、可能性は低いが人にも感染するウイルスであるため、人がエサを与える場合、鳥との接触は避けるべきである。</p>
委員	<p>施設の白鳥の飼育事例の中で、伊丹市の飼育方法で切羽しない状態で飼育と書いてあったが、1年中ここにいるのか。それとも、渡り鳥で飛んでいくのか。</p>
事務局	<p>現在聞いているのは、1年中いるということである。餌付けがされている状況だと聞いている。</p>
市民	<p>他施設での飼育事例で、最後にその他ということで3例目の質問があったが、もう一度説明をしていただきたい。</p>
事務局	<p>山中湖で50羽程度白鳥がいるという事例。</p>
市民	<p>それは、コブハクチョウか。</p>
事務局	<p>管理者がいないため、種類は分からない。</p>
委員	<p>山中湖について、以前、山中湖から白鳥を飼ってほしいという依頼があり、常盤公園へやってきた。現在は、山中湖にはいないのではないか。</p>
事務局	<p>データは2009年の時点のデータである。ホームページ等で調べたことしか分かっていない。</p>
委員	<p>以前、山中湖で羽を切らずに飼っていたようだ。 最近、飼育管理が行き届かないため、3年か4年ぐらい前に常盤公園へ3羽か4羽やってきた。現在の状況はつかんでいない。</p>
市民	<p>それは、コブハクチョウか。</p>
委員	<p>コブハクチョウである。 事例の中の昆陽池について、資料の中では、羽を切羽してないということだが、これは、切羽の仕方が分からないためである。 随分前に、30数羽増えていたことがあるが、繁殖された個体は、すべて親に威嚇されて飛んで逃げてしまう。 本来、コブハクチョウは、アジア圏にはいないが、切羽しないで逃げているコブハクチョウがいるため、アジア圏でコブハクチョウがいるというようなことがいわれている。常盤公園では、生態系を崩さないよう、極力切羽を行っていた。</p>
委員	<p>白鳥が全国の中で、何か所で飼育され、どのぐらい飼育されているのか。また、どのぐらい鳥インフルエンザウイルスで殺処分されたのかを教えてほしい。殺処分されたのは宇部だけなのか。</p>
事務局	<p>昨年のデータでは、富山県高岡市でコブハクチョウが鳥インフルエンザにかかり、すべて殺処分された事例がある。 もう一事例は常盤公園となっている。 最後に、兵庫県加東市で、鳥インフルエンザが確認されてお</p>

	り、3羽中1羽がかかり死亡、2羽については隔離されたがもう1羽死亡した。
委員	どのぐらい全国で飼っているところがあるか。どのぐらいの箇所で飼育されているか。
事務局	現在、動物園・水族館では約50数園ではないかと思われる。2010年3月31日現在で、調べた範囲の動物園・水族館での飼育数は、全体では、58施設で635羽。鳥インフルエンザによる死亡と殺処分を差し引き、現在は56園251羽になっているのではないか。常盤公園での飼育数が非常に多かったため、殺処分後はこれだけ少なくなったと思われる。
4. 意見交換	
委員	鳥インフルエンザの一番恐ろしいところは、人に感染すること。爆発的に感染するところが恐ろしい。ワクチンについても、鳥から人に感染する場合、人に対するワクチンの開発などにも影響があるのではないかと思う。白鳥の飼育に関しては、完全な対策ができない限りは飼育すべきではないと思う。たとえ、1羽、2羽でも殺処分しないといけなくなった時、また子どもたちをはじめ、たくさんの人が悲しい思いをしなければならない。実際にかかった時に誰が責任をとるのかという問題もある。
委員	常盤公園の白鳥は大きく分けて2つの意味があったと思う。1つは、白鳥が宇部市のシンボルであるということ。大きな湖にこれだけの数がいたところは極めてめずらしく、シンボリックな意味合いは強かった。もう1つは、脳の発達についてである。生まれつき持っている本能の脳と、協調を保ちながら、社会の一員として生きていくために必要な理性の脳である。生命あるものに触れる経験によって理性の脳を発達させる点において、常盤公園は極めて有用であった。危機管理のことだけではなく、教育的な場面も考えられる範囲で考えていかなければいけない。学校教育において、学校飼育動物は、脳の発達に良いことが分かっているため、平成23年から、一時的ではなく、2年以上動物を飼育するか、植物を栽培するように条例が変わっている。鳥インフルエンザの問題が起こり、学校で飼育していたニワトリやチャボが飼育されなくなったケースがある。危険性はあるが、どの程度の危険性があるのかを、もう少し柔軟性を持っていただきたい。鳥と人については、もう少し違った考え方があってもよいのではないか。実際に常盤公園でどれだけのことができるのかを、専門家の

	意見を聞きながら考えていけたらと思う。
委員	<p>第1回の市民委員会の時にも、分離飼育についての意見があがっていた。鳥インフルエンザが山口県で初めて発生した時、遊園協会としても、分離飼育を考えていた。しかし、分離飼育した先にもカモが飛来してくるため、リスクとしては変わりがないのではないかという判断をした。今後、インフルエンザの時期に、常盤公園以外の場所へ分離飼育をする場合は、分離飼育先の学校や地域の住民に迷惑がかかることにもなりかねない。</p> <p>また、白鳥の繁殖時期は1月～5月であり、繁殖と分離飼育の時期が重なってしまう。環境が変わることによって、白鳥にもストレスが貯まり、繁殖の可能性はなくなってしまう。分離飼育をする場合は、地域住民や学校関係者へきちんとした情報の提供が必要となり、それができなければ、かなりの予算を使ってでも、広い湖に屋根を覆って、全く野鳥が入らない環境を作る以外は、白鳥を飼育する方法はないのではないか。</p>
委員	<p>常盤公園全体を覆うということは、莫大な費用がかかるのではないか。</p> <p>50羽ぐらいであれば、常盤公園内の別棟で、費用が少なくできるのではないか。</p> <p>湖の除菌（ウイルス）の方法はないか。</p> <p>菌（ウイルス）は、水が少ないと感染率が大きくなるわけではないのか。割合の問題として、水の量は関係ないのか。</p> <p>分離飼育は、完全に屋根を覆う必要がある。それができなければ、インフルエンザ対策が十分でないため、難しいのではないか。</p>
委員	<p>現在、宇部市はメモリアルガーデンを作る計画を立てている。その中でワークショップを開いているが、常盤公園の中に池を作りたいという意見が多く出る。その池の中で分離飼育をするというひとつの可能性もあるのではないか。</p>
委員	除菌（ウイルス）というのは難しい。
委員	<p>市民の大方の希望は、白鳥を復活させたいということではないか。今まででている意見は、正しいとは思いますが、悲観論であり、白鳥はこのまま飼えないのではないかと感じてしまうような、マイナスの意見が出ている。</p> <p>我々には知恵がある。マイナスだけではなく、市民のみなさんの意見は何であるのかを前向きに考える必要がある。</p>
市民	<p>白鳥がほしいのはすべての人がほしいと思う。しかし、飼えるようにするためにはどうしたらよいのかというのを考えなければいけない。</p> <p>白鳥の問題は、原発の問題に置き換えられるのではないか。</p>

	<p>使用済の核燃料を処理する技術がないままに原発を作っている。使用済核燃料を処理できる方法を考えなければいけない。それと同じように、なんとか白鳥を飼える方法を考えていかなければいけないと思う。</p>
委員	<p>このまま討論を続けていっても、答えはずっと出ないままだと思う。</p> <p>できれば、事務局または専門家が、どうすれば安全に白鳥が飼育できるかという方法を考え、それを今後に向かって討論するような形に運営方法を変えた方がよいと思う。</p>
委員	<p>国で鳥インフルエンザの対策や処置の方法などの指示は出ているのか。</p>
事務局	<p>今日の新聞に、9月ぐらいを目処に、環境省から野鳥に関する指針の変更を公表すると掲載してあった。動物園で飼っている鳥については、現時点で指針が出されていない状況である。</p>
委員	<p>野鳥については環境省、家畜については農林水産省が管轄になっている。しかし、動物園動物については、どちらにも入っていない。</p> <p>日本動物園水族館協会は、動物園動物について、管轄をはっきりさせてほしいと要望書を出している。</p>
委員	<p>鳥インフルエンザを防ぐ方法が本当にあるものかどうかを先にお聞きしたい。</p>
委員	<p>高病原性鳥インフルエンザは、世界中に広がり、国内は最悪な状態になっている。しかし、これまで、いつまでも猛威を振るい続けた病原体はいない。</p> <p>今年はどうなるか分からないが、去年は最悪な状態だったため、渡り鳥が来る水を使って飼うような飼育形態は、去年と同じことを繰り返してしまう可能性がある。</p> <p>完全隔離を行い、糞も落ちてこない、水についても、池の水を使わずフィルターをかけるという飼育方法はあるかもしれないが、かなりの費用や労力が必要だと思う。</p>
市民	<p>この1、2年は、白鳥を飼うことは無理だと思っている。白鳥が飼育できる状態になった時、また検討すればよいと思う。</p> <p>この委員会では、この数年のうちに常盤公園をどう変えていくかを討論してほしい。</p> <p>常盤公園の水を水質改善し、直に水と触れ合えるような公園作りなど、目先でできることに取り組み、その後、鳥インフルエンザの問題もおさまってきたら、白鳥を飼育することを検討してほしい。</p>
委員	<p>情操教育の面から、白鳥は必要である。しかし、すぐに白鳥に結びつけなくても、いろいろな方面から情操教育は考えら</p>

	<p>れるのではないか。</p> <p>委員会での話し合いは3回では、少ないのではないか。</p>
委員	<p>しばらくの間は、50年前の原点に戻りながら、その中で情操教育、癒しの心を見つけながら、白鳥については、かすかな光が見えた時点で再導入し、一層情操教育のある県下の常盤公園にすればよいのではないか。</p>
委員	<p>常盤公園正面入口から公園内に入ると、プランターや花壇に花が綺麗に植えられている。</p> <p>ペリカンを見たり、白鳥の形をした足こぎボートが動いているところを見ると、常盤公園が息を吹き返したような気がする。</p> <p>今のところ白鳥が飼育できないのであれば、花と彫刻でお客様をお迎えし、鳥インフルエンザが落ち着いた時点で、白鳥を飼育することにすれば、常盤公園もみんなが楽しめる公園になるのではないか。</p>
委員	<p>白鳥をつがいで、切羽しない状態で飼った場合、白鳥は渡り鳥として飛んで行くのか。行かないのか。</p>
委員	<p>おそらく、逃げることはない。しかし、繁殖した若鳥が一人前になると、親鳥は縄張りを主張するために、若鳥を追い払おうとする。そのため、若鳥はその場所から追われ、逃げていく可能性はある。</p> <p>コブハクチョウは、1ペア単位で繁殖し、子育てを行う。エサを食べる際も1ペア単位で行い、移動する時だけ群れで行動する。1ペア単位でないと飼育しにくい。</p>
委員	<p>切羽しない状態でどこかへ行って、また帰ってくる可能性があるのかと考えた。</p>
委員	<p>飛んで逃げる可能性のあるものに対して、羽を切らないということは、管理者としてはやってはいけないことである。</p> <p>ペリカンは切羽していないものもいるが、ペリカンは集団で繁殖し、エサを食べ、集団で移動する動物であるため、一部分切羽しないペリカンがいたとしても、必ず帰ってくる特徴がある。</p>
市民	<p>常盤公園にいるペリカンに、鳥インフルエンザが感染する可能性はあるのか。</p>
委員	<p>あると考える。</p>
市民	<p>白鳥を戻すことや増やすことは大事だと思うが、ペリカンも常盤公園のシンボルである。</p> <p>ペリカンは、鳥インフルエンザの影響をなんとか逃れた状態であるため、今後、ペリカンを減らさないよう、鳥インフルエンザの感染を防ぐ手立てを討論してほしい。</p>
委員	<p>ペリカンについては、白鳥とは離れていたため、鳥インフルエンザに係る殺処分を免れた。現在、遊園地の中へ分離飼育</p>

	<p>しているが、ペリカン島にはまだたくさんペリカンが残っている。ペリカン島のペリカンを捕まえ、切羽し、湖の中のカモと接触しないような形にしなければならない。現在、できれば10月までに対策を立て、対応をしていきたいと考えている。</p>
委員	<p>家畜を守る法律として、家畜伝染病予防の法律がある。今回の発生を受け、農水省として、法の改正も行われている。防疫指針等の改正もされている。しかし、常盤公園の周辺10km圏内に約35万羽のニワトリが飼育されている。ニワトリに鳥フルエンザが感染すると、100%死んでしまう。ニワトリが殺処分される場合、殺処分の最中から一定期間は収入が得られない。養鶏農家にとって、生活がかかった問題である。</p> <p>平成16年に79年ぶりに山口県で鳥インフルエンザが発生した。そして、平成16年以降は、毎年のように全国で鳥インフルエンザが発生するようになった。</p> <p>今年の鳥インフルエンザは、シベリア経由で直接入ってきたといわれているため、状況はどんどん悪くなっている。ここ数年は、ますますひどくなるか、下火になるか、様子を見た方がよい。</p> <p>新聞によると、環境省が、野鳥に関する指針の別冊で、飼育鳥についてもマニュアルを作成することになっているようだ。推測だが、9月末ぐらいに出るのではないかと考えている。</p>
市民	<p>行政としての意見を先に出し、その上で、議論を進めていった方がよかったのではないか。</p> <p>行政側の制約や法律などがその他にもあるのであれば、すべて言った上で、出てきた意見をどうしたら具体的にできるのかという提案を出してほしい。</p>
委員	<p>この委員会は、常盤公園を考えるという趣旨である。新しく常盤湖を考えるならば、まだまだたくさん意見があると思う。白鳥に注視しているため、いつ終止符を打つか、いつ結論を出すかなど、そういう方向に会を進めていかなければ、堂々巡りになってしまう。</p>
事務局	<p>今日皆様方からでた意見等を集約し、その要旨等については、またホームページ等で公開する。</p>
	<p>《次回の委員会の予定》 11月中旬ぐらいを予定。改めて調整し、案内を行う。</p>